



「図書館活動を、元気に！」

学校図書館委員会 高橋美津子

学校図書館委員会では、郡内各校より一名ずつの先生が集まり、今年度は「各校の実践を交流し合ったり、講座の開催で学び合ったりすることを通して、よりよい図書館運営や図書館活動の方向を探る。」を目的に活動しています。

「子どもたちに人気のある本は？」「おすすめの本は？」といった読書状況を話題に取り上げたときには、子どもの読みたいものとの兼ね合いも考えながら、選書やきっかけ作りを仕組んでいくことが大切であることとを改めて確かめました。また、各校の読書週間の実践内容や工夫点、ブックトークの実践や調べ学習への有効的な指導等を紹介し合い、新たに視野を広げたり自校の活動の参考にしたり…。こうしたお互いの情報交換が図書館活動への元気パワーの一端となると信じてつ。

須高支部として、紙芝居研究家の右手和子先生をお招きして夏休みに「紙芝居の実践講座」を開催しました。参加者は各自の演じたい紙芝居を持ち寄り、グループごと実演に向け演じ方を検討し合いました。紙芝居はお芝居という指導の中、言葉にじっくり向き合い、その言葉の発し方を追求しました。紙芝居の魅力再発見！元気アップ！の一日となりました。

こうしたことを糧に、図書館活動がより活発により有効に働き、子どもたちに伝わるようにと願っています。図書館が元気だと、子どもの読書活動も元気です。

最後に、先生方は「最近ゆくり本を読みましたか？」「心に残る本に出会いましたか？」「もし今、「NO」でしたら、自身が元気になるためにぜひ本を一冊、その手にどうぞ。

(栗方丘小)

第205号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 修
竹内 編集委員 長一
編集人 会報編集委員 眞
吉越 眞
印刷所 須坂新聞社

本校の中核活動

挨拶運動

森上小学校

「最近、家の前を通る子どもたちが朝の挨拶をしてくれて、とつても気持ちいいんですよ。」ある町の会合に出席した帰り際、一人のお年寄りがわざわざ私を呼び止めてお話ししてくださいました。そのお年寄りのお家には小学生はいないのだけれど、森上小の通学路に面しているために毎朝数人の児童が通るのだという。私はこの話を聞き、とてもうれしかった。しかし、一方で代表委員会がおこなっている挨拶運動のことが気になった。

「おはようございます」挨拶を元気よく返す子や頭を下げていく子に混じって、まったく反応を見せない子が何人もいた。そして、同じことを繰り返しているうちに試したくなることがあった。

多くの学校でもそうであるように、森上小学校児童会でも挨拶運動は何年にもわたり中核活動となってきた。にもかかわらず代表委員会では委員会の度に同じ反省が繰り返されている。挨拶を返してくれない人が多い。

なぜだろうか。子どもたちも自分たちなりに対策を考え、実行している。まずは自分たちの挨拶の仕方。立つ場所・立ち方・声の大きさ；しかし結果はあまり変わらない。「しつこく挨拶したら返してくれ

た」ある子が反省として発言したが、しつこい挨拶が良いものとは思えず、この方法も却下された。

挨拶を返せないのはなぜかを知りたくて、私も校門に入ってきた数人に向かって挨拶を試してみた。

(掛川 哲史)

教育会だより

- 8・1・3 各同好会夏期講習会
- 8・1 教育会講演会(小布施町勤労青年ホーム)
- 講師 江戸東京博物館長 竹内誠先生
- 演題 「江戸時代の教育」
- 〓輝いていた子どもたち〓
- 8・24・25 日本連合教育会滋賀大会 (天津プリンスホテル)
- 9・4 第4回理事会
- 9・8 郡研究推進委員会⑤
- 9・9 第5回同好会
- 9・12 第4回代議員会
- 10・7 上高井教育研究会(相森中学校)
- 10・11 第5回理事会
- 10・14・15 郡市科学作品展(シルキーホール)
- 10・17 第6回同好会
- 10・24 研究推進委員会⑥
- 10・27 信教全県研究大会(東北信A)
- 傍陽小・上田養護学校
- 11・8 第6回理事会
- 11・9 信教全県研究大会(東北信B)
- 古間小・野尻小・信濃中学校
- 11・11 研究推進委員会⑦
- 11・14 郡公開研究会
- 11・15 中心講師 田中統治先生(指導)
- ◎社会研究委員会(日野小)
- ◎国語相森中、算数・数学(小山小、理科(高山中)、生活総合(日野小)、音楽(須賀小)
- 図工(美術(豊丘小)、体育(保体(礼小)、家庭(技家(豊丘小)、英語活動(英語(豊洲小)、道徳(旭ヶ丘小)、特別支援教育(森上小)、健康教育(高南小)、人権(同和教育(小布施中))
- 11・18 「信州教育の日」第5回千曲大会
- 11・25 中間会計監査会
- 12・5 第7回同好会
- 12・12 第5回代議員会
- 12・15 研究委員長会②
- 上高井教育会会報第205号発行

職場体験学習

墨坂中学校

墨坂中学では、七月十二・十三日に職場体験学習を行いました。「実際に仕事を体験させていただくことにより、働くことの素晴らしさや喜び、厳しさを体験し、働くことの意義や自分の生き方を考えるきっかけづくり」をねらいとして、毎年二年生が進路学習の一つとして行っています。

これは地域の方のご協力がなければできない学習であり、今年度も、須坂市内を中心に六十二の事業所にご協力をいただいで行いうことができました。生徒は緊張しながらも、学校では決してできないことを体験させていただき、新鮮な気持ちで興味を持って意欲的に取り組みました。学校の中とは違った生徒の良さを、私たち職員も発見することができました。さらに、あいさつやことば遣いなど、基本的なことの大切さを体験を通して実感することもできました。

また、事業所の方も中学生の職場体験学習を前向きに受け止め、積極的に生徒に関わってくださいました。

「元氣よくあいさつができました。言われた事を守って、積極的に取り組む姿が見られました。私たちも、子供たち

からパワーをいただき、楽しく一緒に仕事をする事ができました。」(略)何事もお客様の身になって行動し、気持ちよく買い物をしていただくために、気配りや心配りをする事は、学生生活にも社会生活にもとても大事な事なので、その心を忘れずに生かしてくれたらうれしいです。」

ありがたいことです。

最後に生徒の感想です。

「小さな部品を手作業で一つ一つ作っていく苦労と、それが終わったときの喜びを知りました。質問で、『仕事の喜び』を聞いてみました。『思った通りの物ができ、お客さんに喜んでもらえたとき』だそうです。体験したからわかります。どれだけ大変かということが、お客さんに喜んでもらえたら本当にうれしいということ。ぼくたちは本当の仕事を任されて、ミスがないようにしていねいにたくさん部品を作りました。この部品が人の手に渡る、自分で作った部品が人の手に届く。それがどんなに重要なことか、仕事が終わったときの素晴らしい達成感をぼくはこの職場体験学習で学びました。この職場体験学習を通して知った一つのことは、どんな時もお客様

地域の皆さんと共に 子どもの安全を守る

豊丘小学校

「初めはあいさつをしない子どもが多かったけれど、今ではほとんどの子が『こんにちは。』『ありがとうございます。』と返す。』と返す。それが自分にとつても励みになる。』週に数回、子どもたちの下校を見守りながら一緒に



児童の下校を見守ってくださる『豊丘地区孫を守る老人クラブ』の方々

に歩いてくださっている民生委員の方が、こう話してください。昨年来、登下校時の子どもたちの安全確保の問題が全国で大きく叫ばれている。豊丘地区も決して例外ではない。そんな中で、豊丘で特に感じるのは「地域の子どもは地域で守る。」という地域の皆さんの気概である。

を第一に考えていること、二つ目は、明るい元氣なあいさつができ、公私の区別ができ、てきぱきした言動ができる人がこの仕事に向いていることです。ぼくはこの二日間で、今まで知らなかったことをたくさん教えていただき、色々なことを知ることができました。お店の人ともたくさん関わることができ、やってみてとても良かったと思います。」

今後地域の方のご協力を得ながら職場体験学習を行っていきたく考えています。

(下崎 健二)

下校途中の小学生が犠牲になった昨年の悲しい事件を受けて、PTAの皆さんは早速保護者にアンケートを行い、その結果から安全対策における家庭での取り組みを四項目にまとめて各家庭へ提案すると同時に、保護者によるボランティアを募り活動を始めてくださった。(園里っ子見守り隊)と命名、現在登録者三四名。また三月には老人クラブの方々が「豊丘地区孫を守る老人クラブ」としてボランティアを始めてくださった。子どもたちの下校時刻にあわせて、散歩や通りに出

るなどの活動を三〇名以上の会員の方々が地道に続けてくださっている。さらに、四月からは民生委員の方々も下校する児童と一緒に歩いてくださっている。週に数回、中には学区の一番はずれから歩いて四〇分ほどの道のりを、わざわざ学校まで子どもたちを迎えに来て、一緒に帰ってくださる方もいる。老人クラブの方々にも、民生委員の方々にも本当に頭の下がる思いである。学校でももちろん、職員による安全パトロールや安全マップの作成、毎月の防犯ブザー点検、複数下校の徹底などの取り組みをしている。

今年度に入り七月に、それぞれの取り組みを互いに理解し、一層連携を強めていきたいと願い、「豊丘小学校子どもを守る安全対策会議」を開いた。その席上でも「子どもは地域の宝みんなで見守っていきたい。」〇〇さんのお宅に「子どもを守る安心の家」をお願いしたらどうか。「保育園の保護者にもボランティアに加わっていただいたらどうか。」など、たくさん建設的なご意見をいただいた。

考えてみれば、学校も地域の一員である。「地域の子は地域で守る。」豊丘の地域の皆さんと気持ちを同じくして、これからは地域の皆さんと共に、子どもたちの安全を守る取り組みを進めていきたい。(菊池秀樹)

「学びの眼」と「単元評価」

相森 中学校

本校では、研究テーマ「学びの『眼』をひらいていく授業の創造」のもと、研究を行っている。また、単元ごとに絶対評価を行っている。

これまでの研究から、「学びの『眼』をひらく授業」とは、生徒が自ら課題を持ち、主体的に追究していく学習と考えている。知識が統合され強化されたり、物事の本質に触れ納得したりして、学び分かることの喜びや楽しさが実感できる授業ととらえた。また、私たち教師にとっては、

主眼の明確化や、つけるべき力と授業のヤマ場づくりが意識化される必要がある。

評価は、生徒自身が自己理解を深め、学習意欲を高めるために行うものであり、生徒一人ひとりの可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立てるものである。そのためには、具体的な学習目標に照らした単元ごとの絶対評価が大切である。しかし、教師自らの学習指導のあり方、授業のあり方も問われる。

また、絶対評価とはいいな

がら、五段階に数値化する際、無意識に相対化しがちである。「3」の基準を十分吟味していかなければならない。

生徒につけるべき力を明確にし、評価基準に対する信頼性をより高めること。また、教師と生徒による共同作業、共同作品である授業をよりよいものにする。学校教育目標「壮・優・輝」の具現につながる。と考える。

本校では、評価カリキュラムの見直しをしてきて四年が経過したが、進路等での確かな成果を踏まえ、今後、保護者理解をいっそう充実させていく必要性を感じている。

(宮沢 淳)

地域教材化の取り組み

日野 小学校

校舎から見渡す風景は一面の果樹園と田んぼ。さらに遠くに高梨や塩川地区の住宅街や商店街を見渡す典型的な須坂の町の中に日野小学校は位置している。そんな自然と人情味あふれる伝統に恵まれた日野地区は地域素材の宝庫であると日頃から思っている。

で、至る所に用水が流れている。子どもたちにとっても身近な存在である。この身近な水を、湧水を子どもたちとどう関わらせたいかと日野小職員も考えている。

本校では、一年生から六年生まで「地域に飛び出し、地域に学ぼう」をモットーに様々な形で、日野地区から学んできている。

日野は、昔から湧水が豊富

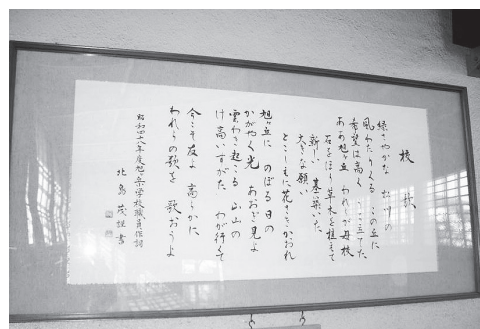


点を本校職員が共通理解して、大事に取り組んでいる。

身近な問題を切り口に活動に入っていった方が子どもたちも意欲をもって取り組むという事実が、ずくを出して教材しようという日野小職員のエネルギーになっている。

(山浦 昭男)

本校の宝④ 旭ヶ丘小学校 「校歌」



きます。その学校づくりの歴史のままを、当時の職員が詞にし曲にしたものがこの校歌です。

緑さやかな松川の風わたりくるこの丘に希望は高く打ち立てたああ 旭ヶ丘我らが母校石を掘り草木を植えて新しい基 築いた大きな願い
とこしえに花さきかおれ旭ヶ丘にのぼる日のかがやく光仰ぎ見よ雲わき起こる山々の気高い姿我がゆくて今こそ友よ高らかにわれらが歌を歌おうよ

旭ヶ丘小学校の宝物は、本校の子どもたちであることはいうまでもありませんが、他に探してみますと、子どもたちが喜んで歌っている歌があります。それは、本校の校歌です。

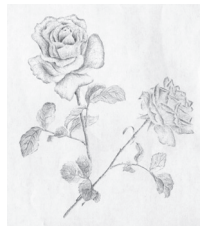
昭和四十八年に制定された。曲をお聞かせできないのが、残念です。良くある重厚なメロディーではなく、そこにいる子どもたちや職員が一体となつて築き上げた、その当時の姿が生き生きと感じられ親しみ深い曲です。

(原 彰彦)

火ばら談義

豊洲小学校記念池

樽田実徳



高山中 小林奈津子

豊洲小学校には記念池と呼ばれる池があります。この池は卒業記念として造られ、その後整備され現在に至っています。池の中には、鯉や鮒等が住んでいます。いつも濁っているため、子ども達は魚を大切にしてくれません。

あまり濁っているので、三年前PTA作業で池清掃をしました。また濁って魚すら

見えません。そんな池の魚がかわいそうに思った四年生が記念池清掃を提案し、ピオトープ構想を考えていた六年生と協力し合い池清掃をしました。池はとても綺麗に復活したのですが、池に入る水が全く出ない状態があり、この池を造って下さった業者さんを探し、何年かぶりに池へ水を入れる方法が分かった



のでした。学校職員が移動するところも分らないままの池です。池へ流れ込

む水を見て喜んでくれたのは池清掃をしてくれた子ども達でした。四年生の子も達は、その後雨水が入ってしまう池を何とかしようと考え、池の周囲に砂防ダムを整備して雨水の流入を防ぎ、ヘドロがたまらないようにしたのです。子ども達のちよつとした活動が多く魚類(命)を助けることにつながりました。(豊洲小)

卓球全国大会

伊藤隆夫

平成十八年度全国中学校体育大会・第二十七回全国中学校卓球大会が高松市で行われました。東中からは、男子個人戦で出場権を得た一名が参加しました。一年生のときから長野県代表として北信越大会に参加してききましたが、なかなか十位の壁を突破できず、三年生で初めての参加となりました。

一回戦は、北海道の選手を相手に第一ゲームから積極的な攻撃が決まり優勢に試合を進

めました。特に第三ゲームは十対〇という一方的なスコアとなり、ゲームカウント三対〇で勝利を収めました。二回戦の相手は、九州の選手で、昨年度の大会でベスト四に入った実力のある選手でした。第一ゲームは一回戦の勢いのまま思い通りの攻撃で奪うことができました。しかし、第二ゲーム以降は攻撃の良さを封じられ、三ゲーム連取を許してしまいました。本人は、全国でも通用す

る部分と、上位の選手に対して足りない部分があることを実感し、さらに高いレベルでの練習に取り組んでいく決意を強くもつことができました。全国大会へ進むことができてもっとも大きな要因は、本人の努力の積み重ねに他なりません。県大会出場を目指して戦った団体戦で声をからしてチームメイトを応援したり、個人戦を応援してくれたチームメイトに心のこもった言葉でお礼の気持ちを伝えたりし、チームの仲間とともに戦いを進めることができたこともよかったですと思います。(東中)

合唱に想う

竹村昭浩

今年もさわやかな感動を残して常盤祭が終わった。中でも私の心に強く残っているのは三年生の学年合唱である。

私は一年生の担任なので、自分のクラスや一学年合唱の発表が素晴らしく、当然のことながらそのことに喜びを感じた。が、涙が出てくるほどの感動はなかった。

ところが、自分の学年ではない三年生の合唱を聞いたときには涙が溢れ出てくるほどの感動があった。何故だろうか。

三年生合唱『ハレルヤ』の大合唱は凄く迫力だった。背筋がゾクゾクするほど気持ち伝わってきた。しかしその歌声以上に私が感じたのは、彼らの精神的に自立したその姿だった。

入学して約二年半。入学した頃は自信なさそうにいつもうつむいていたAさんが。私と意見が合わずにぶつかり合ったC君が。人間関係で悩んでいて暗い表情だったBさんが。部活動をやめたいと言っていて泣いていたD君が…。

思春期真っただ中、様々な苦悩を抱えているに違いない。彼らはそれを乗り越え、堂々と自分の脚で立っている。一杯の声を出して歌っている。

私は単に歌声の素晴らしさではなく、その裏にある彼らのドラマを通して成長したその姿に心が動かされたのだろうと思う。

一年生とはまだ半年の付き合いである。これから彼らの中学校生活にも様々な試練や苦悩が待っていること、それらを逞しく乗り越えていくことを期待している。そして彼らが最上級生になったときの常盤祭ではさらに大きな感動を与えてくれることになるだろう。それを思うとこれから彼らと過ごす毎日が楽しみでたまらない。(常盤中)

編集後記

年の瀬が近づき、今年も残すところあとわずかになりました。

このところ子どもたちをめぐって悲しい事件が続き、心が痛むと同時に、教育が担う役割の大切さを改めて考えさせられます。

205号をお届けします。お忙しい中、原稿を寄せて頂いた皆様、心より感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。(中沢・小川)